

2027年国際園芸博覧会

環境影響評価方法書の概要

令和4年5月31日

一般社団法人 2027年国際園芸博覧会協会

本日の説明内容

- 1 対象事業の概要
- 2 配慮書からの変更点
- 3 配慮市長意見の内容及び事業者の見解
- 4 環境影響要因の抽出及び環境影響評価項目の選定
- 5 調査、予測及び評価の手法
- 6 方法書対象地域

1 対象事業の概要

3

対象事業の概要

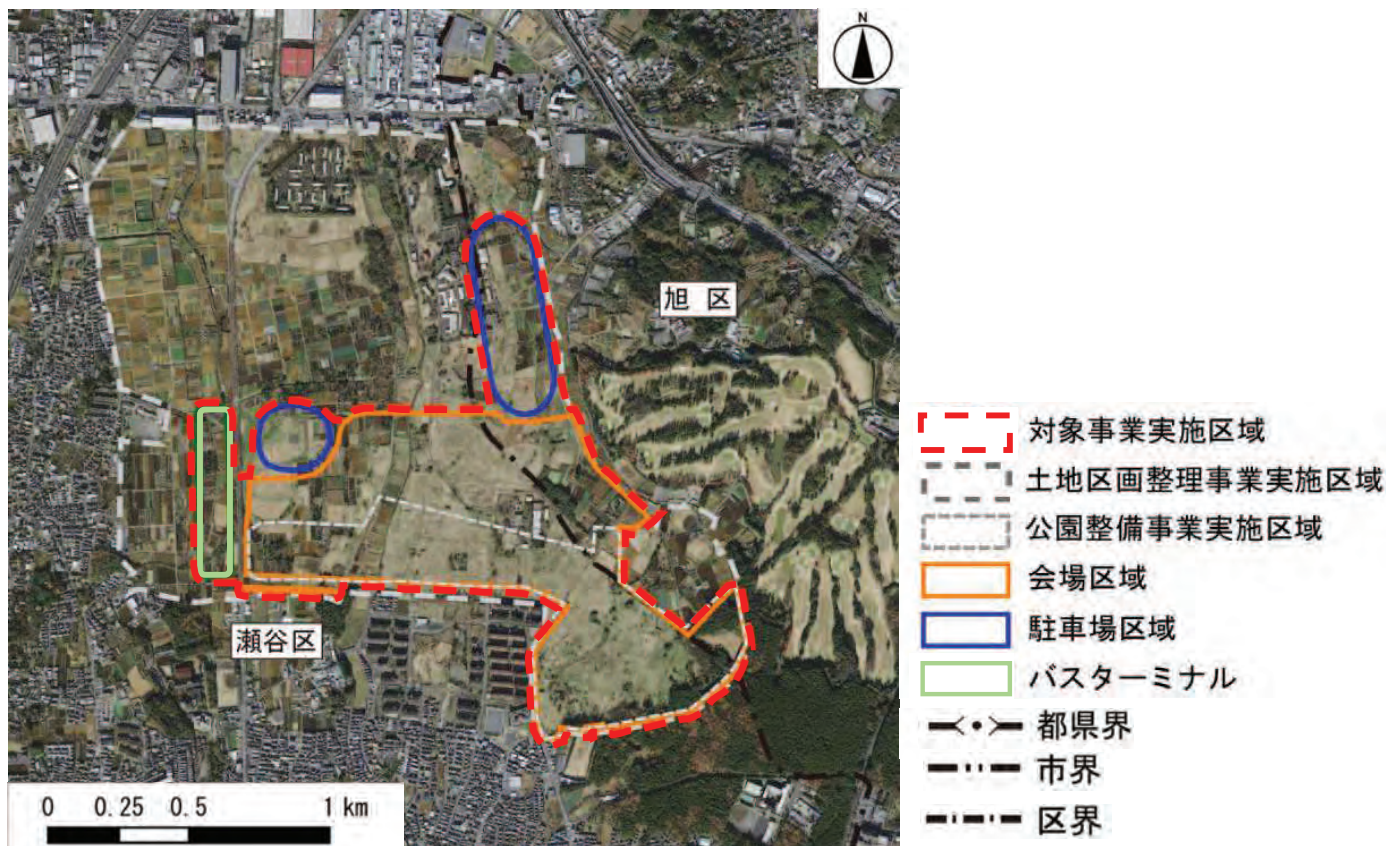
方法書P.2-1

事業者の氏名及び住所	名称	(一社) 2027年国際園芸博覧会協会
	代表者の氏名	代表理事 十倉 雅和
	主たる事務所の所在地	横浜市中区本町4丁目43番地 A-PLACE馬車道 4階
対象事業の名称	2027年国際園芸博覧会	
対象事業の種類、規模	開発行為に係る事業（第1分類事業） 対象事業実施区域の面積：約100.0ha （会場区域 約80.0ha、駐車場区域及びバスターミナル 約20.0ha）	
対象事業実施区域	横浜市旭区上川井町、瀬谷区瀬谷町	

4

対象事業の概要

方法書P.2-3



5

対象事業の目的

方法書P.2-4

■ 対象事業の目的

- 国際的な園芸文化の普及
- 花と緑のあふれる暮らし
- 地域・経済の創造
- 社会的な課題解決等への貢献

また、横浜が体現するグリーンシティを世界に発信し、国内外の都市に共通する課題の解決につなげることを目指す。

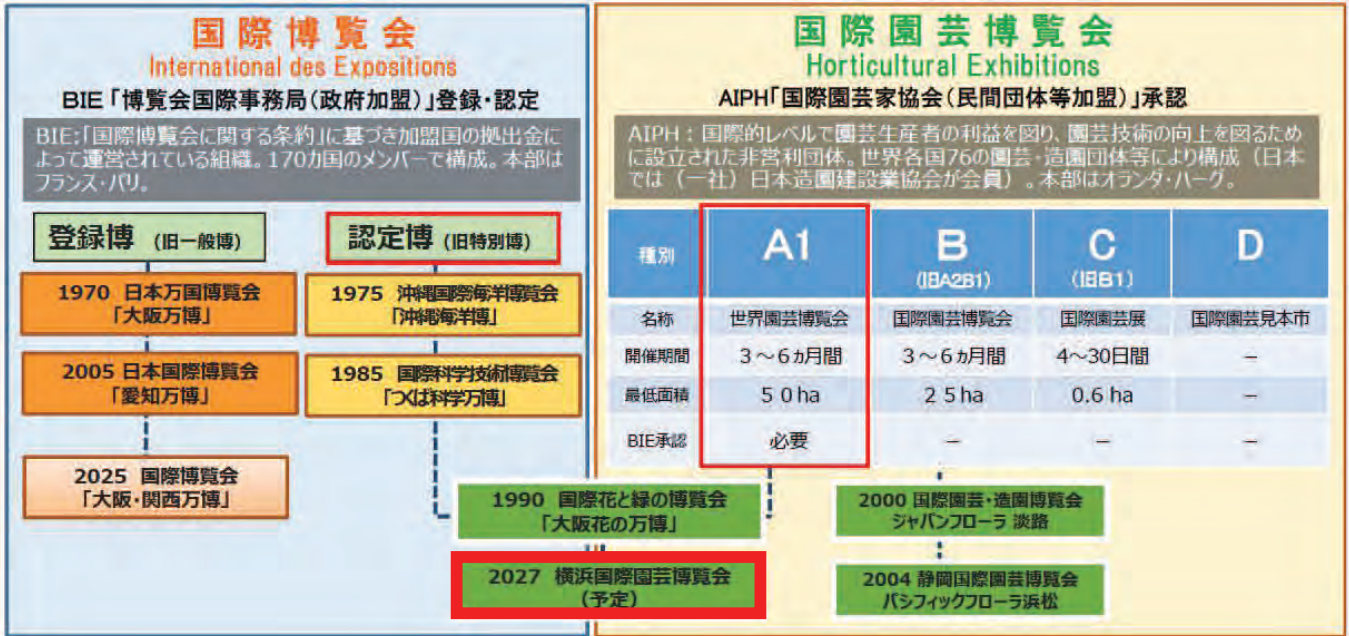
6

対象事業の目的

方法書P.2-4～2-5

■ 国際園芸博覧会

- ・ 国際園芸家協会(AIPH)の承認を得て開催
- ・ 最上位のA1クラスは博覧会国際事務局 (BIE) の認定が必要



対象事業の方針

方法書P.2-6～2-8

(1) テーマ

「幸せを創る明日の風景
 ～Scenery of The Future for Happiness～」

サブテーマ：テーマを具現化するための切り口

自然との調和
 Co-adaptation

緑や農による共存
 Co-existence

新産業の創出
 Co-creation

連携による解決
 Co-operation

(2) 会場コンセプト

里山で培われた思想・行動が未来を広げ、花と緑が輝き、
 人と自然が共に紡ぐ明日の風景 (Scene)

グリーンインフラの考え方

方法書P.2-8~2-9

- ・ 様々な公益的機能をもたらす空間として 存在効用（ハード）と利用効用（ソフト）の両面のあり方 を提示していく。



9

景観計画

方法書P.2-9

■ 基本的な考え方

- ① 大平原の眺望や農のある上瀬谷の自然特性を活用
- ② 日本の里山風景、日本庭園に代表される伝統的思想を取り込む
- ③ 四季の移り変わりや朝夕の時間ごとに表情を変える景観を視認できるよう、高さが異なる多様な視点場の設置
- ④ 歩く楽しみや新たな移動手段により風景の発見を喚起し、移動自体を楽しむ
- ⑤ 花の持つ魅力を最大限に引き出し、鑑賞に限らない花や木、緑の香りなどの要素も含めた五感で感じる景観づくり

基本的事項

方法書P.2-10

1) 開催場所	旧上瀬谷通信施設
2) 開催期間	令和9（2027）年3月～9月
3) 博覧会区域	約100.0ha（会場区域 約80.0ha、駐車場区域及びバスターミナル 約20.0ha）
4) 参加者数	1,500万人（ICT活用や地域連携などの多様な参加形態を含む） （有料来場者数：1,000万人以上）
5) 開催組織	一般社団法人2027年国際園芸博覧会協会

11

会場区域を構成する施設等

方法書P.2-12

①庭園等	海外からの公式参加者、国内の民間企業、園芸家、自治体等、様々な参加者による出展庭園や花壇
②庭園等を支える施設	試験植栽圃場、植物ストックヤード等
③展示等の施設	中核展示施設：テーマ等を具現化した展示 屋内展示施設：コンペティション等を開催 催事施設：公式の行催事等を開催 サービス施設：来場者へ各種サービスを提供

12

会場区域を構成する施設等

方法書P.2-12

【施設の配置・運営上の環境配慮】

- ・ 将来の公園施設となる恒久施設の活用により、廃棄物等の処分量を削減
- ・ 隣接する住宅団地や南東側周辺のとまとまった緑地等の隣接部への配慮

- ・ 多数の来場者が長時間に亘って滞在するような施設の配置を回避
- ・ 音響設備の音量、稼働時間についても適切な運営ルールを設定
- ・ 照明の向きや照度等への配慮など適切な運営ルールを設定

13

会場配置計画図

方法書P.2-13



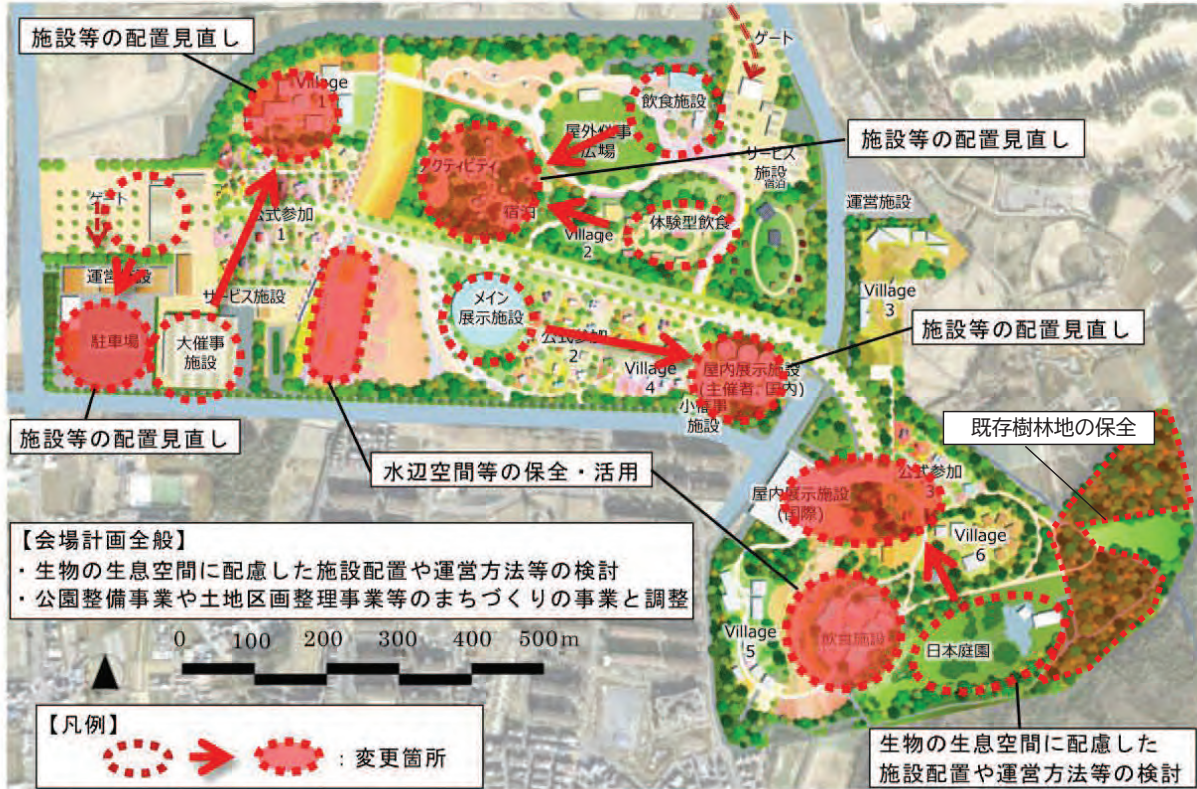
会場配置計画図（令和3年3月時点）

14

◆この資料は審査会用に作成したものです。審査の過程で変更されることがありますので、取扱いにご注意願います。
◆この資料は、「2027年国際園芸博覧会 環境影響評価方法書」の内容を抜粋したものです。

会場配置計画図（主な変更概要）

方法書P.2-13



会場配置計画図（主な変更概要）（令和4年3月時点）

※検討途中の案であり、今後更新される予定

15

◆この資料は審査会用に作成したものです。審査の過程で変更されることがありますので、取扱いにご注意願います。
◆この資料は、「2027年国際園芸博覧会 環境影響評価方法書」の内容を抜粋したものです。

駐車場区域、バスターミナル

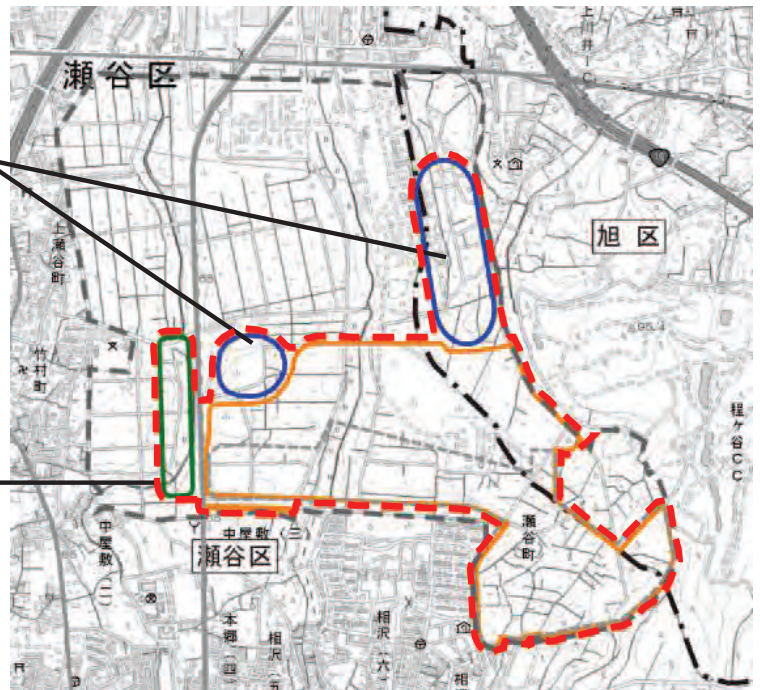
方法書P.2-14

(1) 駐車場区域

- 会場に隣接した約3,000台分の駐車場を設置

(2) バスターミナル

- 会場区域外の西側隣接地に設置



16

インフラ計画

方法書P.2-14

- ・「土地区画整理事業」によって整備される造成地、道路、上下水、ガス、電気通信、雨水調整池等のインフラの活用
- ・「公園整備事業」によって整備される園路、広場、植栽等の活用
- ・電力は100%再生可能エネルギーとすることを目標に、再生可能エネルギーの積極的活用を検討
- ・植物のたい肥化や、食料残渣等を活用したエネルギーの創出など、資源の循環等を検討

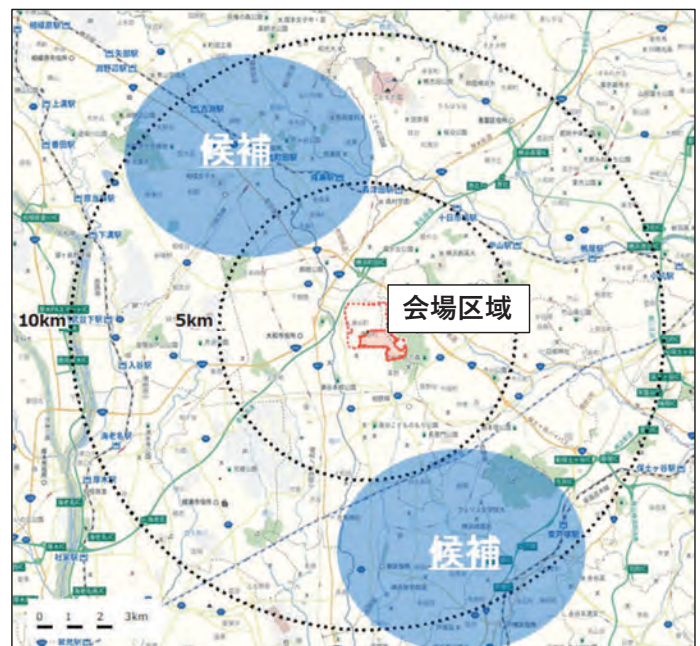
17

輸送計画

方法書P.2-15～2-17

(1) 自家用車、団体バス

- 1) 対象事業実施区域内駐車場
 - ・団体バス含め約3,000台分
 - ・事前予約の導入などを実施
- 2) パークアンドライド
 - ・概ね10km圏内に複数の自家用車用駐車場を確保
 - ・シャトルバスで輸送



パークアンドライド駐車場候補地のイメージ

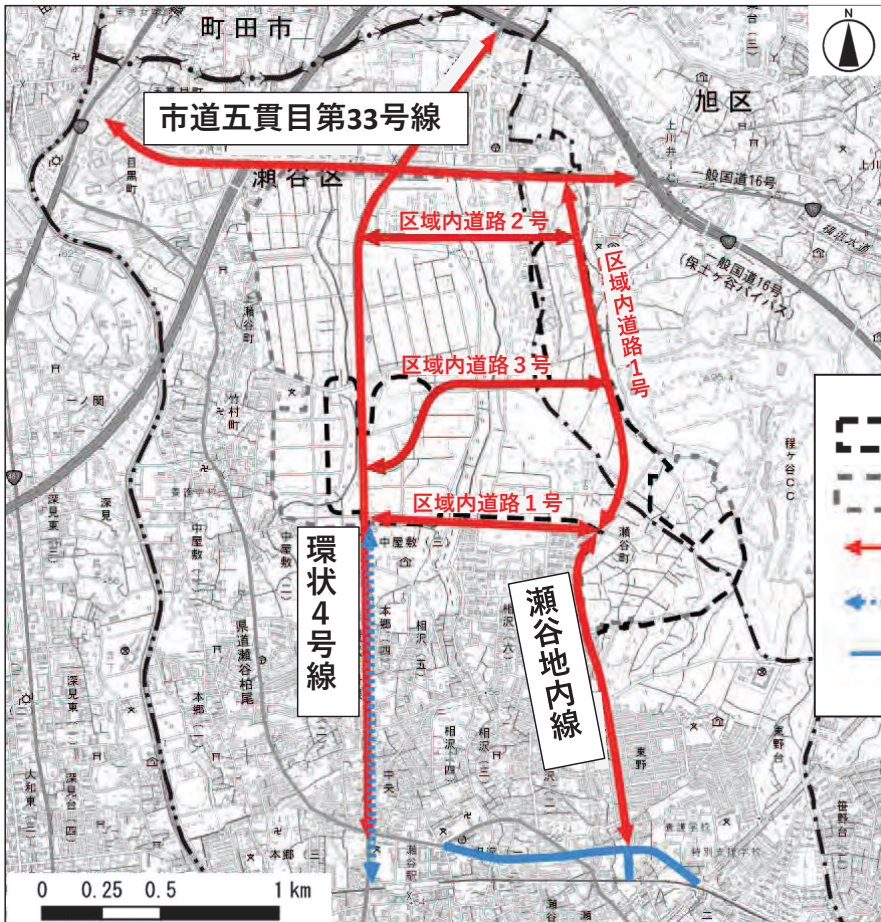
18

(2) 公共交通

- ・ 近隣鉄道駅からシャトルバスを発着
- ・ 路線バスの利用についても想定

(3) 徒歩・自転車等

- ・ 環状4号線の歩道等を経由
- ・ 自転車利用のための駐輪場を整備



注：環状4号線（旧上瀬谷通信施設地区内）の拡幅及び区域内道路1号から3号の整備は土地区画整理事業により整備

植栽地管理計画

方法書P.2-18

(1) 植栽地管理

- ・ 生態系への影響が懸念される植物の拡散防止
- ・ 生態系への影響が少ない農薬の選定
- ・ 地域住民や来場者による参加

(2) 検疫

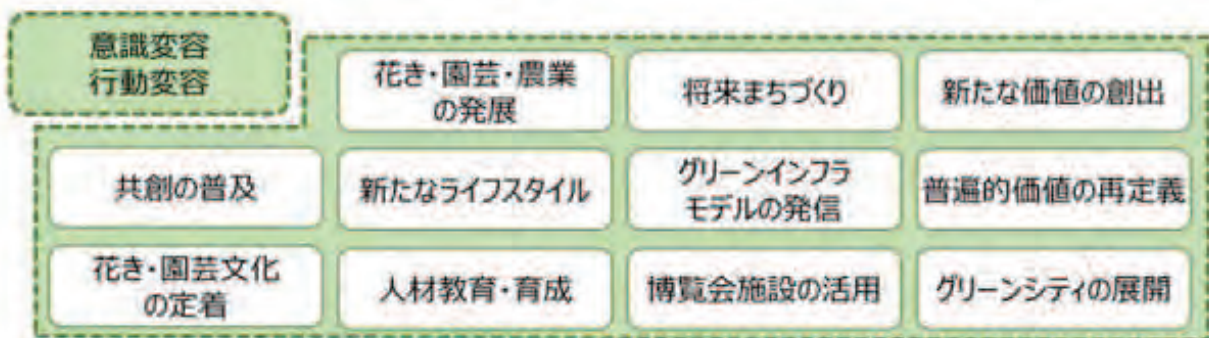
- ・ 植物防疫法に基づく検疫等の実施
- ・ ガイドラインの策定と参加国への周知徹底

21

レガシー計画

方法書P.2-19

- ・ 公園施設などを有効活用し、街全体へ継続・発展
- ・ 公園整備事業等の関連事業と連携して取り組む



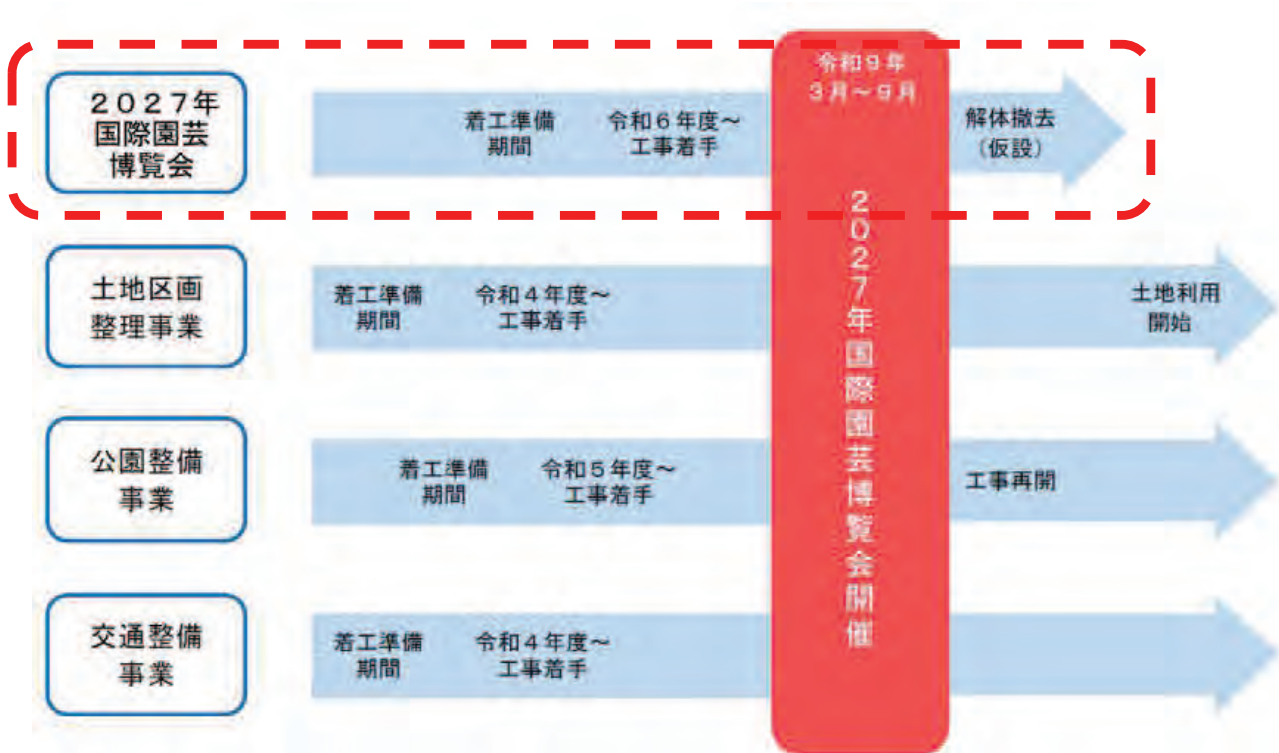
テーマを展開するレガシーの方向性

22

◆この資料は審査会用に作成したものです。審査の過程で変更されることがありますので、取扱いにご注意願います。
 ◆この資料は、「2027年国際園芸博覧会 環境影響評価方法書」の内容を抜粋したものです。

今後のスケジュール

方法書P.2-20

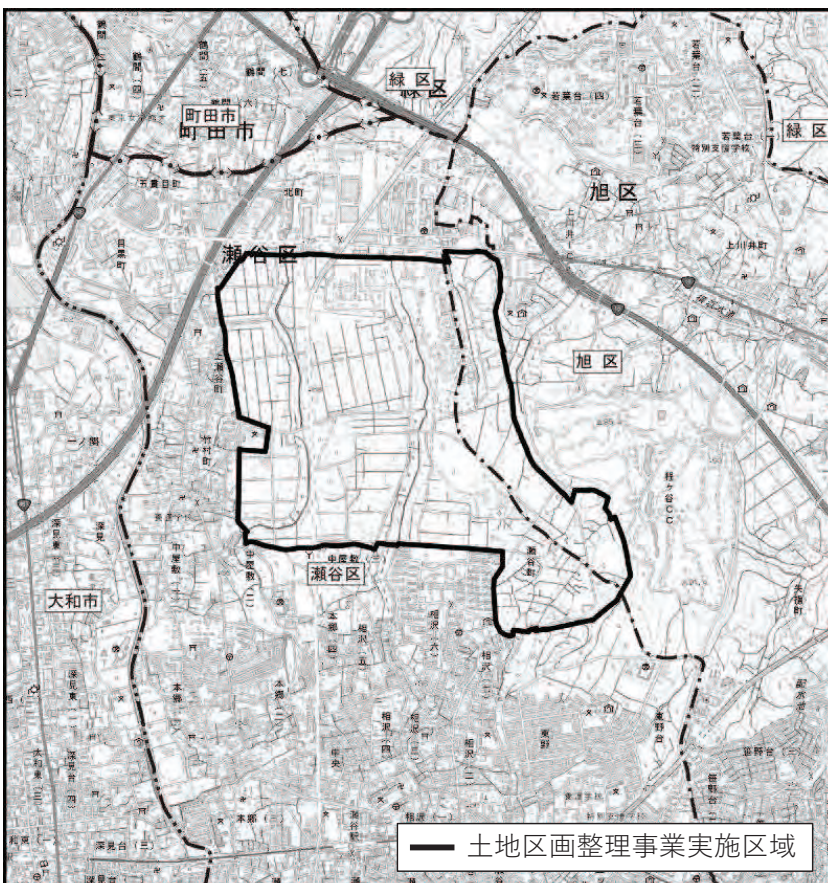


23

◆この資料は審査会用に作成したものです。審査の過程で変更されることがありますので、取扱いにご注意願います。
 ◆この資料は、「2027年国際園芸博覧会 環境影響評価方法書」の内容を抜粋したものです。

施工計画

方法書P.2-21～2-23



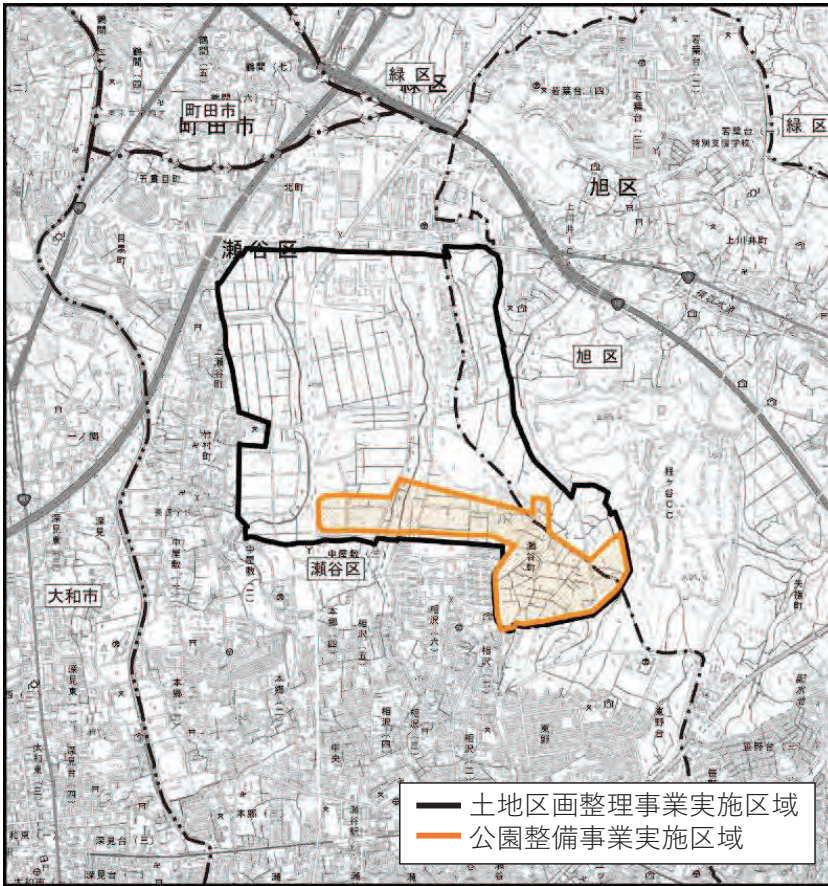
造成工事及び基盤整備
(土地区画整理事業)

24

◆この資料は審査会用に作成したものです。審査の過程で変更されることがありますので、取扱いにご注意願います。
 ◆この資料は、「2027年国際園芸博覧会 環境影響評価方法書」の内容を抜粋したものです。

施工計画

方法書P.2-21~2-23



造成工事及び基盤整備
 (土地区画整理事業)



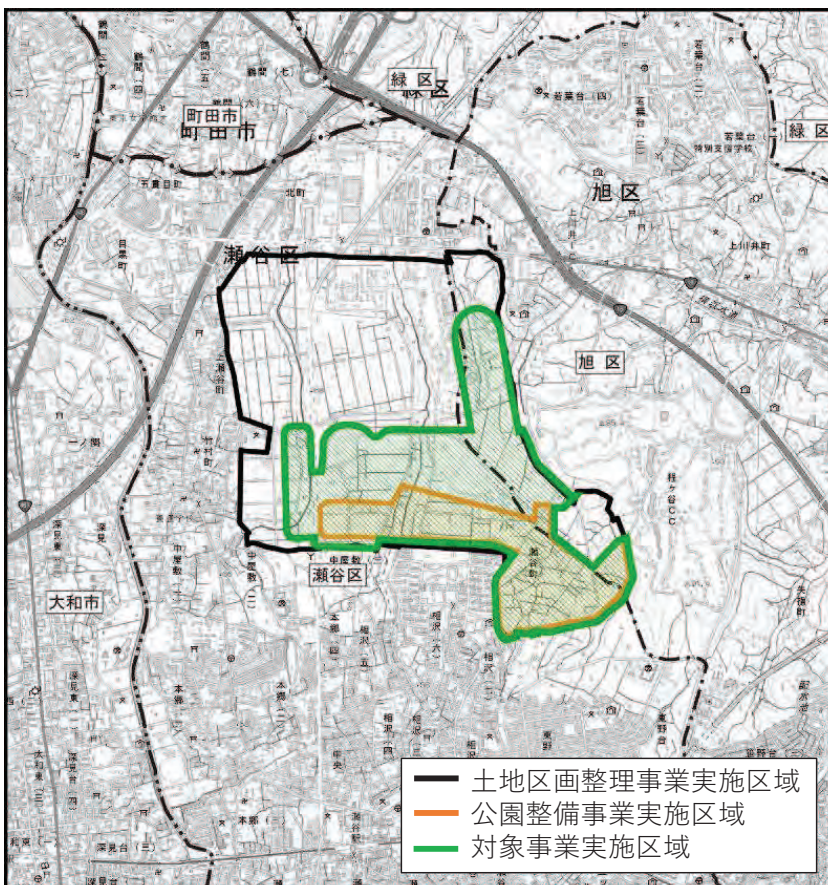
園路、広場、植栽等の整備
 (公園整備事業)

25

◆この資料は審査会用に作成したものです。審査の過程で変更されることがありますので、取扱いにご注意願います。
 ◆この資料は、「2027年国際園芸博覧会 環境影響評価方法書」の内容を抜粋したものです。

施工計画

方法書P.2-21~2-23



造成工事及び基盤整備
 (土地区画整理事業)



園路、広場、植栽等の整備
 (公園整備事業)
 ※博覧会時は一時中断



仮施設等の整備
 ※開催後撤去・復旧
 (国際園芸博覧会)

26

施工計画（工事工程）

- ・ 土地区画整理事業、公園整備事業と整合を図り、順次着工
- ・ 博覧会後は、仮施設等の撤去・復旧工事を実施
- ・ 建設機械の稼働や、車両の走行等について平準化を図るなど、
工事による環境負荷低減に向けた対策を検討

本博覧会の工事工程(予定)

工種種別	令和									
	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	
着工準備期間										
準備工										
基盤整備工										
植栽工										
設備工										
園路広場工										
施設整備工										
出展整備工										
撤去・復旧工										

着工
開始

撤去
復旧

2027年国際園芸博覧会

2 配慮書からの変更点

配慮書からの変更点

■ 主な変更点

配慮書からの 変更点	方法書での記載概要
<u>事業者の氏名等</u>	横浜市から一般社団法人2027年国際園芸博覧会協会に事業承継したことから、 <u>事業者名及び事業の名称を更新</u>
<u>対象事業実施区域</u>	事業計画の進捗に伴い、 <u>対象事業実施区域の図示範囲を変更</u>
<u>事業計画</u>	・事業計画の進捗に伴い、 <u>事業計画の内容を一部更新</u> ・ <u>新たな項を起こし、記載</u> (施工計画、地球温暖化対策、生物多様性の保全等)
<u>配慮の内容（全般）</u>	配慮市長意見書を踏まえ、 <u>配慮の内容を更新</u>

3 配慮市長意見の内容 及び事業者の見解

配慮市長意見の内容及び事業者の見解

方法書P.4-7~4-8

1 全般的事項

意見の内容	事業者の見解
(1) 配慮事項に対する配慮の内容を適切に事業計画に反映させるとともに、検討している事項については、各々の検討状況を方法書に記載すること。	<ul style="list-style-type: none"> 配慮事項に対する配慮の内容について、現時点での検討状況を方法書に記載しました。配慮の内容については、<u>適切に事業計画に反映していきます。</u>
(2) 今後の事業の進展においては、 <u>本市の最新の計画等と整合を図るなど、適時、適切な配慮内容となるよう努めること。</u>	<ul style="list-style-type: none"> <u>事業の進捗に合わせ、横浜市の最新の計画等と整合を図るとともに、適時、適切な配慮内容となるよう努めます。</u>

31

配慮市長意見の内容及び事業者の見解

方法書P.4-7~4-8

1 全般的事項

意見の内容	事業者の見解
(3) <u>関連事業と調整を図り、工事による環境負荷の低減に向けた対策を検討すること。</u> また、関連4事業の事業スケジュールの詳細を分かりやすく方法書に記載すること	<ul style="list-style-type: none"> 本博覧会の工事工程と併せて、関連事業の工事工程を方法書に記載しました。 工事に伴う環境負荷を低減するため、<u>建設機械の稼働や工事用車両の走行等について平準化を図るなど、今後関連事業との調整を行いながら検討していきます。</u>
(4) 博覧会協会への承継が予定されていることから、承継にあたっては、配慮の内容等を確実に引き継ぐこと。	<ul style="list-style-type: none"> 横浜市から本博覧会協会への承継にあたって、<u>配慮の内容等を確実に引き継ぎました。</u>

32

配慮市長意見の内容及び事業者の見解

方法書P.4-7~4-8

2 配慮指針に掲げられている配慮事項

- (1) 周辺環境への影響、生物の生息生育環境の保全や温暖化対策への配慮
 【配慮事項 (1)】

意見の内容	事業者の見解
<p>計画区域の南東側周辺のまとまった緑地に生息する動物及び計画区域内に整備される生物の生息空間への影響を少なくするため、<u>会場内の施設配置については、人と自然との距離を確保するように検討すること。</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域の南東側周辺のまとまった緑地等の隣接部においては、<u>多数の来場者が長時間に亘って滞在することが想定される施設はできるだけ配置しないよう配慮することとし、音響設備や照明についても、周辺環境に配慮した適切な運営ルールの設定を検討する旨を方法書に記載しました。</u>

33

配慮市長意見の内容及び事業者の見解

方法書P.4-7~4-8

2 配慮指針に掲げられている配慮事項

- (2) 緑化等による生物の生息環境の確保、生物多様性の保全と創造
 【配慮事項 (6)】

意見の内容	事業者の見解
<p>海外から導入する植物については、拡散すると既存の生態系への大きな影響が危惧されることから、<u>植物展示に際しての慎重な取扱いを十分に検討すること。</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> 海外から導入する植物については、<u>拡散による既存の生態系への影響が出ないように、植物展示に際しては慎重な取扱いをする旨を方法書に記載しました。</u> <u>植物検疫に関するガイドラインを作成し、参加国へ配布することにより、周知徹底を図ります。</u>

34

配慮市長意見の内容及び事業者の見解

方法書P.4-7~4-8

2 配慮指針に掲げられている配慮事項

(3) 交通集中の回避、歩行者の安全・利便性への配慮【配慮事項（14）】

意見の内容	事業者の見解
<p>ア <u>交通分担率や駐車場の収容台数など、交通計画の詳細を方法書以降の図書に記載すること。</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・駐車場の収容台数など交通計画の詳細については、<u>現計画段階における想定に基づいて記載しました。</u>交通分担率については、<u>交通計画の進捗を踏まえ、準備書で記載します。</u>
<p>イ <u>交通集中の回避に寄与する「パーク&ライド」システムを積極的に活用するとともに、シャトルバスの運行計画などを踏まえ適切な環境影響評価を行うこと。</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「パークアンドライド」システムの積極的な活用やシャトルバスの適切な運行計画を検討します。 ・準備書においては「パークアンドライド」システムの積極的な活用やシャトルバスの運行計画を踏まえ、<u>適切な環境影響評価を行います。</u>

35

4 環境影響要因の抽出 及び環境影響評価項目の選定

36

環境影響要因の抽出

方法書P.5-1

■ 工事中

環境影響要因	要因の概要
<u>建設機械の稼働</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建物の建築や施設の整備等の工事のため、建設機械が稼働
<u>工事用車両の走行</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資機材の運搬、廃棄物等の搬出及び施設の管理等を行う車両が走行
<u>建設行為等の実施</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建物の建築や施設の整備等の工事を実施 ・ <u>庭園等の整備に伴い、外来植物を含む植物の搬入・植栽・管理を実施</u>

37

環境影響要因の抽出

方法書P.5-1

■ 開催中

環境影響要因	要因の概要
<u>会場施設等の存在</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 展示・サービス施設、花壇、庭園、駐車場及びバスターミナル等が存在 ・ 土地区画整理事業において創出された水辺空間等が存在
<u>施設の供用</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 来場者及び施設管理関係者等の施設利用 ・ 会場内で様々な行催事等を開催 ・ 施設の管理・運営作業等を実施
<u>関係車両の走行</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 来場者の自家用車、シャトルバス及び団体バス等の車両が走行 ・ 資機材の運搬、廃棄物等の搬出及び施設の管理等を行う車両が走行
<u>外来植物を含む植栽等の管理</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外来植物を含む植物の搬入・植栽・管理

38

環境影響要因の抽出

方法書P.5-1

■撤去中

環境影響要因	要因の概要
<u>建設機械の稼働</u>	・仮施設等 ^等 の解体工事のために建設機械が稼働
<u>工事用車両の走行</u>	・撤去物や廃棄物の搬出のため、車両が走行
<u>仮施設等^等の撤去</u>	・仮施設の解体・撤去を実施

39

環境影響評価項目の選定

方法書P.5-2

■工事中

環境影響評価項目		環境影響要因		
	細目	建設機械の稼働	工事用車両の走行	建設行為等の実施
温室効果ガス		○	○	○
生物多様性	動物／植物／生態系	—	—	○
水循環	地下水位及び湧水の流量	—	—	○
廃棄物	一般廃棄物	—	—	○
	産業廃棄物	—	—	○
大気質	大気汚染	○	○	—
騒音		○	○	—
振動		○	○	—
地域社会	交通混雑	—	○	—
	歩行者の安全	—	○	—
触れ合い活動の場		—	○	—

40

環境影響評価項目の選定

方法書P.5-2

■開催中

環境影響評価項目		環境影響要因			
	細目	会場施設等の存在	施設の供用	関係車両の走行	外来植物を含む植栽等の管理
温室効果ガス		—	○	○	○
生物多様性	動物／植物／生態系	○	○	—	○
水循環	地下水位及び湧水の流量	○	—	—	—
	河川の形態、流量	—	—	—	○
廃棄物	一般廃棄物	—	○	—	○
	産業廃棄物	—	○	—	○
大気質	大気汚染	—	—	○	—
騒音		—	○	○	—
振動		—	—	○	—
地域社会	交通混雑	—	—	○	—
	歩行者の安全	—	—	○	—
景観		○	—	—	—
触れ合い活動の場		—	○	○	—

41

環境影響評価項目の選定

方法書P.5-2

■撤去中

環境影響評価項目		環境影響要因		
	細目	建設機械の稼働	工事用車両の走行	仮設施設等の撤去
温室効果ガス		○	○	—
生物多様性	動物／植物／生態系	—	—	○
廃棄物	一般廃棄物	—	—	○
	産業廃棄物	—	—	○
大気質	大気汚染	○	○	—
騒音		○	○	—
振動		○	○	—
地域社会	交通混雑	—	○	—
	歩行者の安全	—	○	—
触れ合い活動の場		—	○	—

42

5 調査、予測及び評価の手法

関連事業の調査結果の活用

方法書P.6-1

- 土地区画整理事業及び公園整備事業において実施された現地調査の結果を引用

環境影響評価項目	調査結果を引用する関連事業	
	土地区画整理事業	公園整備事業
温室効果ガス	—	—
生物多様性	○	○
水循環（湧水の流量、河川の流量）	○	○
廃棄物・建設発生土	—	—
大気質	○	—
騒音	○	—
振動	○	—
地域社会 （交通混雑、歩行者の安全）	○	—
景観	○	○
触れ合い活動の場	○	—

温室効果ガス

方法書P.6-2

■ 調査手法

調査項目注	調査方法
<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>温室効果ガスに係る原単位の把握</u> 	資料 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「<u>温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル</u>」等の既存文献や、<u>各省庁等において公表されている値等を収集・整理</u> ・ <u>既存資料</u>や横浜市ホームページから<u>温室効果ガス排出抑制対策としての取組</u>について収集・整理 ・ 横浜市により集計されている<u>温室効果ガス排出量の推移</u>についても整理
<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>排出抑制対策の実施状況</u> 	

注：主な調査項目を記載

45

温室効果ガス

方法書P.6-2～6-3

■ 予測手法（工事中・撤去中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
<u>建設機械の稼働、工事用車両の走行に伴う二酸化炭素排出量</u>	【地域・地点】 対象事業実施区域 【時期】 工事期間全体、解体撤去工事期間全体	「 <u>温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル</u> 」等により <u>温室効果ガスの排出量を算定</u>
<u>植物ストックヤード等における植栽管理に伴う二酸化炭素排出量</u>	【地域・地点】 対象事業実施区域 【時期】 工事期間全体	「 <u>温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル</u> 」等により <u>温室効果ガスの排出量を算定</u>

46

温室効果ガス

方法書P.6-2～6-3

■ 予測手法（開催中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
関係車両の走行、 施設の供用に 伴う二酸化炭素排出量	【地域・地点】 対象事業実施区域 【時期】 開催期間全体	「温室効果ガス排出量算定・ 報告マニュアル」等により温室 効果ガスの排出量を算定
植物ストックヤード等 における植栽管理に 伴う二酸化炭素排出量	【地域・地点】 会場区域 【時期】 開催期間全体	「温室効果ガス排出量算定・ 報告マニュアル」等により温室 効果ガスの排出量を算定

47

生物多様性（動物）

方法書P.6-4～6-11

■ 調査手法

調査項目 ^注	調査方法
動物の状況 ・動物相 ・生息環境の特性 ・注目すべき動物種及び 生息地の状況 ・動物の生息環境から みた地域環境特性	<p>土地区画整理事業評価書において実施されている現地調査（以下）の結果を収集・整理</p> <p>a.哺乳類 任意観察法、フィールドサイン法、トラップ法、無人撮影法及び夜間調査（コウモリ類） ・4季（夏季、秋季、冬季、春季）</p> <p>b.鳥類 任意観察法、ラインセンサス法、定点観察法及び夜間調査（フクロウ類、夜行性鳥類） ・5季（夏季、秋季、冬季、春季、初夏）</p> <p>c.両生類及び爬虫類 任意観察法、任意採取法及び夜間調査 ・5季（夏季、秋季、早春季、春季、初夏）</p>
	資料

注：主な調査項目を記載

48

生物多様性（動物）

方法書P.6-4～6-11

■ 調査手法

調査項目注	調査方法
動物の状況 <ul style="list-style-type: none"> 動物相 生息環境の特性 注目すべき動物種及び生息地の状況 動物の生息環境からみた地域環境特性 	d.昆虫類 任意観察法、任意採取法、ライトトラップ法、 バイトトラップ法、夜間調査、鳴声調査 ・3季（夏季、秋季、春季） e.クモ類 任意観察法及び任意採取法 ・3季（夏季、秋季、春季） f.陸産貝類 任意観察法及び任意採取法 ・2季（冬季、初夏季） g.魚類 任意観察法及び任意採取法 ・4季（夏季、秋季、冬季、春季） h.底生動物 任意観察法、任意採取法及び定量調査 ・4季（夏季、秋季、冬季、春季）

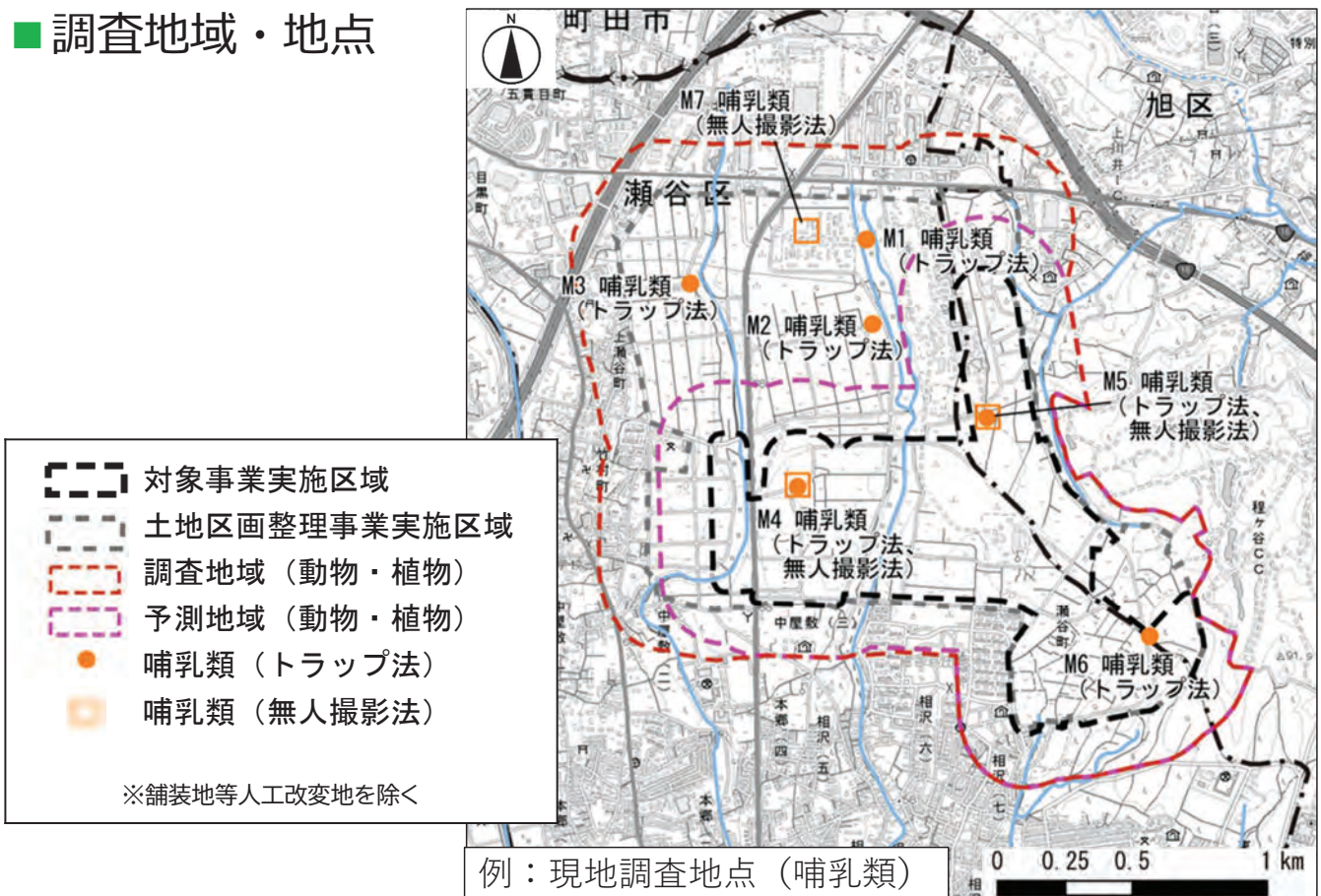
注：主な調査項目を記載

49

生物多様性（動物）

方法書P.6-4～6-11

■ 調査地域・地点



50

生物多様性（動物）

方法書P.6-4～6-11

■ 予測手法（工事中・撤去中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
工事の実施に伴う動物相の変化の内容及びその程度	<p>【地域・地点】 対象事業実施区域及びその端部から約200m までの範囲（舗装地等人工改変地を除く）</p> <p>【時期】 工事期間全体</p>	調査で把握した動物相及び生息環境の状況と施工計画を比較することで、隣接する瀬谷市民の森や土地区画整理事業によって創出される水辺空間等を生息環境とする動物への間接的影響の程度を定性的に予測
仮施設等の撤去に伴う動物相の変化の内容及びその程度	<p>【地域・地点】 対象事業実施区域及びその端部から約200m までの範囲（舗装地等人工改変地を除く）</p> <p>【時期】 撤去期間全体</p>	調査で把握した動物相及び生息環境の状況と仮施設等の撤去に係る計画を比較することで、隣接する瀬谷市民の森や土地区画整理事業によって創出される水辺空間等を生息環境とする動物への間接的影響の程度を定性的に予測

51

生物多様性（動物）

方法書P.6-4～6-11

■ 予測手法（開催中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
会場施設等の存在に伴う動物相の変化の内容及びその程度	<p>【地域・地点】 対象事業実施区域及びその端部から約200m までの範囲（舗装地等人工改変地を除く）</p> <p>【時期】 開催期間全体</p>	調査で把握した動物相及び生息環境の状況と会場計画を比較することで、隣接する瀬谷市民の森や土地区画整理事業によって創出される水辺空間等を生息環境とする動物への間接的影響の程度を定性的に予測
音響施設及び夜間照明の使用に伴う動物相の変化の内容及びその程度	<p>【地域・地点】 対象事業実施区域及びその端部から約200m までの範囲（舗装地等人工改変地を除く）</p> <p>【時期】 行催事実施時</p>	調査で把握した動物相及び生息環境の状況と行催事実施時の騒音発生源の音圧レベル、夜間照明の諸元をもとに、隣接する瀬谷市民の森や土地区画整理事業によって創出される水辺空間等を生息環境とする動物への間接的影響の程度を定性的に予測

52

生物多様性（動物）

方法書P.6-4～6-11

■ 予測手法（開催中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
外来植物を含む植栽等の管理に伴う動物相の変化の内容及びその程度	<p>【地域・地点】 対象事業実施区域及びその端部から約200mまでの範囲（舗装地等人工改変地を除く）</p> <p>【時期】 開催期間全体</p>	調査で把握した動物相及び生息環境の状況と植栽管理の計画を比較することで、隣接する瀬谷市民の森や土地区画整理事業によって創出される水辺空間等を生息環境とする動物への間接的影響の程度を定性的に予測

53

生物多様性（植物）

方法書P.6-12～6-15

■ 調査手法

調査項目 ^注	調査方法
植物の状況 ・植物相 ・植生 ・注目すべき植物種及び植物群落の状況	<p>土地区画整理事業評価書で実施されている現地調査（以下）の結果と、公園整備事業方法書の審査で提出された補足資料を収集・整理</p> <p>資料</p> <p>陸生植物 a.植物相調査 任意観察法、任意採集法、大径木調査（維管束植物） ・維管束植物は4季（夏季、秋季、早春季、春季） ・蘚苔類は2季（秋季、初夏季）</p> <p>b.植生調査 コドラート法 ・2季（夏季、春季）</p> <p>水生植物 a.附着藻類調査 任意観察法及び定量採取法 ・4季（夏季、秋季、冬季、春季）</p>

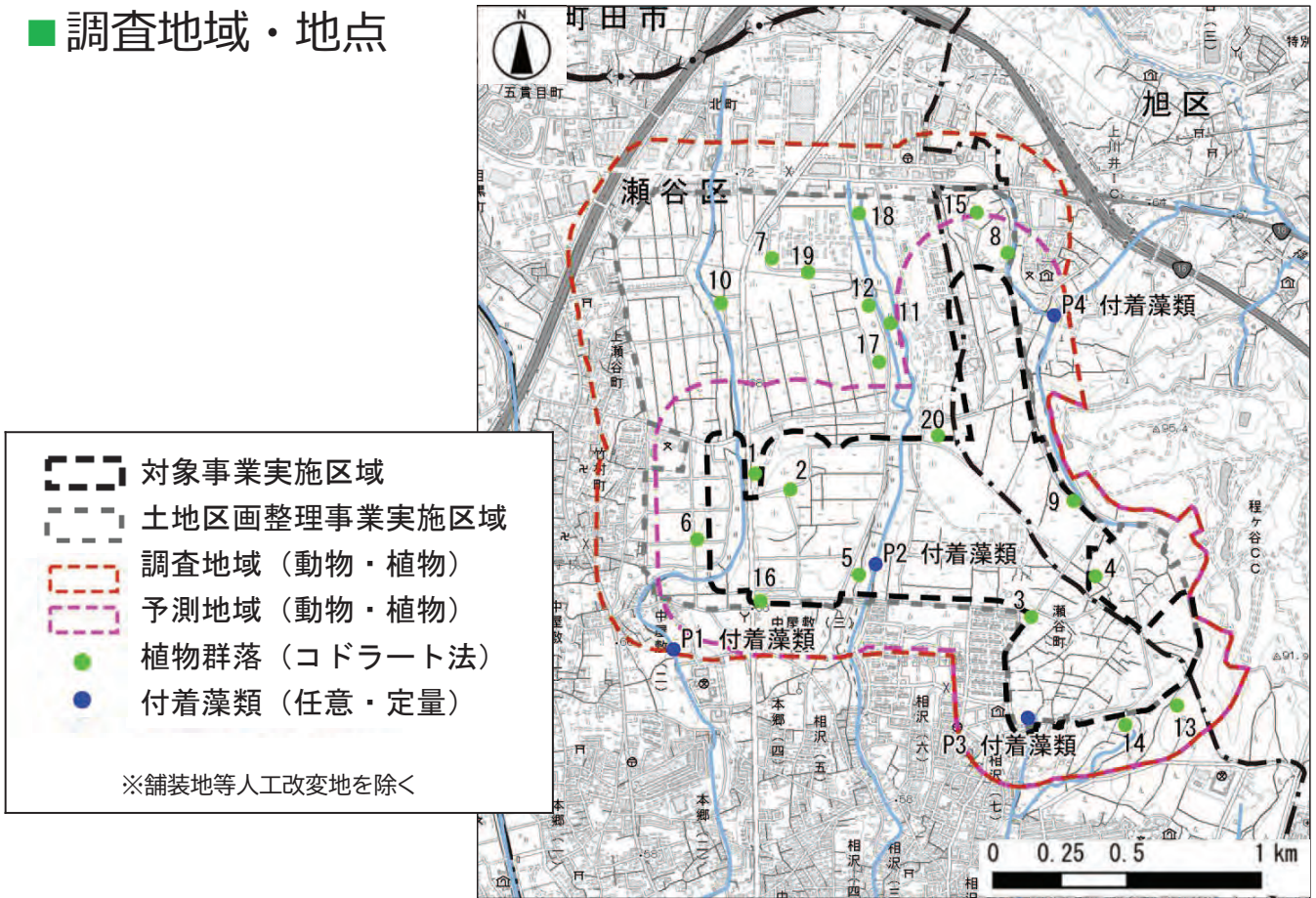
注：主な調査項目を記載

54

生物多様性（植物）

方法書P.6-12～6-15

■ 調査地域・地点



55

生物多様性（植物）

方法書P.6-12～6-15

■ 予測手法（工事中・撤去中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
工事の実施に伴う植物相の変化の内容及びその程度	【地域・地点】 対象事業実施区域及びその端部から約200m までの範囲（舗装地等人工改変地を除く） 【時期】 工事期間	調査で把握した植物相及び植生の状況と施工計画を比較することで、隣接する瀬谷市民の森や土地区画整理事業によって創出される水辺空間等を生息環境とする植物への間接的影響の程度を定性的に予測
仮施設等の撤去に伴う植物相の変化の内容及びその程度	【地域・地点】 対象事業実施区域及びその端部から約200m までの範囲（舗装地等人工改変地を除く） 【時期】 撤去期間	調査で把握した植物相及び植生の状況と仮施設等の撤去に係る計画を比較することで、隣接する瀬谷市民の森や土地区画整理事業によって創出される水辺空間等を生息環境とする植物への間接的影響の程度を定性的に予測

56

生物多様性（植物）

方法書P.6-12～6-15

■ 予測手法（開催中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
会場施設等の存在に伴う植物相の変化の内容及びその程度	<p>【地域・地点】 対象事業実施区域及びその端部から約200m までの範囲（舗装地等人工改変地を除く）</p> <p>【時期】 開催期間全体</p>	調査で把握した植物相及び植生の状況と会場計画を比較することで、隣接する瀬谷市民の森や土地区画整理事業によって創出される水辺空間等を生息環境とする植物への間接的影響の程度を定性的に予測
夜間照明等の使用に伴う植物相の変化の内容及びその程度	<p>【地域・地点】 対象事業実施区域及びその端部から約200m までの範囲（舗装地等人工改変地を除く）</p> <p>【時期】 開催期間全体</p>	調査で把握した植物相及び植生の状況と開催実施時の夜間照明の諸元をもとに、隣接する瀬谷市民の森や土地区画整理事業によって創出される水辺空間等を生息環境とする植物への間接的影響の程度を定性的に予測

57

生物多様性（植物）

方法書P.6-12～6-15

■ 予測手法（開催中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
外来植物を含む植栽等の管理に伴う植物相の変化の内容及びその程度	<p>【地域・地点】 対象事業実施区域及びその端部から約200m までの範囲（舗装地等人工改変地を除く）</p> <p>【時期】 開催期間全体</p>	調査で把握した植物相及び植生の状況と植栽管理の計画を比較することで、隣接する瀬谷市民の森や土地区画整理事業によって創出される水辺空間等を生息環境とする植物への間接的影響の程度を定性的に予測

58

生物多様性（生態系）

方法書P.6-16～6-18

■ 調査手法

調査項目 ^注	調査方法	
生態系の状況 ・生態系を構成する要素の状況 ・食物連鎖の状況	資料	<u>土地区画整理事業評価書</u> で実施されている動物の状況及び植物の状況の調査結果により、 <u>生態系の状況を把握</u>

注：主な調査項目を記載

59

生物多様性（生態系）

方法書P.6-16～6-18

■ 予測手法（工事中・撤去中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
工事の実施に伴う生態系の変化の内容及びその程度	<p>【地域・地点】 対象事業実施区域及びその端部から約200m までの範囲（舗装地等人工改変地を除く）</p> <p>【時期】 工事期間</p>	調査で把握した生態系の状況と施工計画を比較することで、 <u>隣接する瀬谷市民の森や土地区画整理事業によって創出される水辺空間等に形成される生態系への間接的影響の程度を定性的に予測</u>
仮施設等の撤去に伴う生態系の変化の内容及びその程度	<p>【地域・地点】 対象事業実施区域及びその端部から約200m までの範囲（舗装地等人工改変地を除く）</p> <p>【時期】 撤去期間</p>	調査で把握した生態系の状況と仮施設等の撤去に係る計画を比較することで、 <u>隣接する瀬谷市民の森や土地区画整理事業によって創出される水辺空間等に形成される生態系への間接的影響の程度を定性的に予測</u>

60

生物多様性（生態系）

方法書P.6-16～6-18

■ 予測手法（開催中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
会場施設等の存在に伴う生態系の変化の内容及びその程度	<p>【地域・地点】 対象事業実施区域及びその端部から約200m までの範囲（舗装地等人工改変地を除く）</p> <p>【時期】 開催期間全体</p>	調査で把握した生態系の状況と会場計画を比較することで、隣接する瀬谷市民の森や土地区画整理事業によって創出される水辺空間等に形成される生態系への間接的影響の程度を定性的に予測
音響施設及び夜間照明の使用に伴う生態系の変化の内容及びその程度	<p>【地域・地点】 対象事業実施区域及びその端部から約200m までの範囲（舗装地等人工改変地を除く）</p> <p>【時期】 開催事実時</p>	調査で把握した生態系の状況及び開催事実時の騒音発生源の音圧レベル、夜間照明の諸元をもとに、隣接する瀬谷市民の森や土地区画整理事業によって創出される水辺空間等に形成される生態系への間接的影響の程度を定性的に予測

61

生物多様性（生態系）

方法書P.6-16～6-18

■ 予測手法（開催中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
海外から搬入した植物の展示植栽による動物の誘引、在来植物との交雑等による生態系の変化の内容及びその程度	<p>【地域・地点】 対象事業実施区域及びその端部から約200m までの範囲（舗装地等人工改変地を除く）</p> <p>【時期】 開催期間全体</p>	調査で把握した生態系の状況と植栽管理の計画を比較することで、隣接する瀬谷市民の森や土地区画整理事業によって創出される水辺空間等に形成される生態系への間接的影響の程度を定性的に予測

62

水循環（湧水の流量、河川の流量）

方法書P.6-19～6-22

■ 調査手法

調査項目 ^注	調査方法
水循環の状況 ・湧水の分布、 流量及び水質	土地区画整理事業評価書で実施されている現地調査（以下）の結果、公園整備事業方法書で実施が予定されている現地調査（以下）の結果を収集・整理 資料 容器法にて湧水量又は流量を測定、水温、水素イオン濃度（pH）、電気伝導度（EC）を測定 ・平常時：2回（渇水期、豊水期）（土地区画整理事業） ・4回（四季）（公園整備事業）
水循環の状況 ・河川の形態、 流量の状況	土地区画整理事業評価書で実施されている現地調査（以下）の結果を収集・整理 資料 「水質調査方法」（昭和46年環水管第30号）に定められた方法に基づいて河川の流量を測定 ・平常時：2回（渇水期、豊水期） ・降雨時：2回

注：主な調査項目を記載

63

水循環（湧水の流量、河川の流量）

方法書P.6-19～6-22

■ 調査地点



64

水循環（湧水の流量）

方法書P.6-19～6-22

■ 予測手法（工事中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
工事の実施に伴う湧水の流量の変化の内容及びその程度	【地域・地点】 現地調査の範囲と同一の地域・地点 【時期】 工事期間全体	調査で把握した湧水の状況と施工計画を比較することで、 <u>影響の程度を定性的に予測</u>

65

水循環（湧水の流量）

方法書P.6-19～6-22

■ 予測手法（開催中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
集水域の土地利用の変更に伴う湧水の流量の変化の内容及びその程度	【地域・地点】 現地調査の範囲と同一の地域・地点 【時期】 開催期間全体	調査で把握した湧水の状況と事業計画を比較することで、 <u>影響の程度を定性的に予測</u>

66

水循環（河川の流量）

方法書P.6-19～6-22

■ 予測手法（開催中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
開催中の植栽等の管理に伴う河川の流量の変化の内容及びその程度	【地域・地点】 対象事業実施区域の下流側 4地点 （地点2、4、5、6） 【時期】 開催期間全体	調査で把握した河川の状況と事業計画を比較することで、 <u>影響の程度を定性的に予測</u>

67

廃棄物

方法書P.6-23～6-24

■ 調査手法

調査項目 ^注	調査方法
廃棄物及び建設発生土の処理処分の状況 ・種類別発生量 ・資源化の状況 ・廃棄物の処理状況	資料 横浜市における廃棄物の処理状況等を、 <u>既存資料</u> から収集・整理

注：主な調査項目を記載

68

廃棄物

方法書P.6-23～6-24

■ 予測手法（工事中・撤去中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
<u>建設行為等の実施に伴い発生する</u> ・一般廃棄物 ・産業廃棄物 の内容及びその程度	【地域・地点】 対象事業実施区域 【時期】 工事期間全体	<ul style="list-style-type: none"> ・施工計画を基に発生量を推定 ・本博覧会で<u>実行可能な再利用等の方法や、処理方法等を整理し、種類ごとに発生量と最終処分量を予測</u>
<u>仮設施設等の撤去に伴い発生する</u> ・一般廃棄物 ・産業廃棄物 の内容及びその程度	【地域・地点】 対象事業実施区域 【時期】 撤去工事期間全体	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画（仮設施設）や仮設施設等の撤去に係る計画を基に<u>発生量を推定</u> ・本博覧会で<u>実行可能な再利用等の方法や、処理方法等を整理し、種類ごとに発生量と最終処分量を予測</u>

69

廃棄物

方法書P.6-23～6-24

■ 予測手法（開催中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
<u>施設の供用に伴い発生する</u> ・一般廃棄物 ・産業廃棄物 の内容及びその程度	【地域・地点】 対象事業実施区域 【時期】 開催期間全体	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画を基に発生量を推定 ・本博覧会で<u>実行可能な再利用等の方法や、処理方法等を整理し、種類ごとに発生量と最終処分量を予測</u>
<u>植栽の管理に伴い発生する</u> ・一般廃棄物 ・産業廃棄物 の内容及びその程度		

70

大気質

調査手法

調査項目注	調査方法
大気質の状況 ・窒素酸化物 ・浮遊粒子状物質	・近傍の常時監視測定局のデータを収集・整理 ・土地区画整理事業評価書で実施されている現地調査（以下）の結果を収集・整理 「二酸化窒素に係る環境基準について」等に定める方法 7日間×24時間×4季
気象の状況 ・風向、風速 ・日射量 ・放射収支量	・近傍の常時監視測定局のデータを収集・整理 ・土地区画整理事業評価書で実施されている現地調査（以下）の結果を収集・整理 風向・風速：「地上気象観測指針」に定める方法 日射量、放射収支量：日射計、放射収支計を設置 7日間×24時間×4季
大気汚染物質の主要な発生源の状況 ・主要発生源の状況 ・自動車交通量等の状況	・既存資料の収集・整理 ・土地区画整理事業評価書で実施されている現地調査（以下）の結果を収集・整理 自動車断面交通量 平日（24時間）×1回、休日（24時間）×1回

注：主な調査項目を記載

大気質

調査地点

※工事用車両の専用出入口の詳細な位置・線形については、現時点で未定。



 対象事業実施区域
 土地区画整理事業実施区域
 都県界 市界 区界
→→ 工事用車両の走行ルート（工事中・撤去中）
▨ 工事用車両の専用出入口（工事中）※
→→ 工事用車両の走行ルート（撤去中）
→→ 関係車両走行ルート（開催中）
— 整備計画中の道路
 沿道大気（公定法・簡易法）
 一般大気（公定法）、地上気象
▲ 沿道大気（簡易法）
 交通量

大気質

方法書P.6-25～6-28

■ 予測手法（工事中・撤去中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
<u>建設機械の稼働に伴う大気質濃度</u> ・二酸化窒素 ・浮遊粒子状物質	【地域・地点】 最大着地濃度の出現する地点を含む範囲 【時期】 建設機械の稼働による影響が最大となる時期	「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」に示されている <u>大気拡散式により、年平均値、日平均値及び1時間値を予測</u>
<u>工事用車両の走行に伴う大気質濃度</u> ・二酸化窒素 ・浮遊粒子状物質	【地域・地点】 工事用車両の走行ルート沿道として想定される道路沿道4地点（交通量1～4） 【時期】 工事用車両の走行による影響が最大となる時期	「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」に示されている <u>大気拡散式により、年平均値、日平均値及び1時間値を予測</u>

73

大気質

方法書P.6-25～6-28

■ 予測手法（開催中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
<u>関係車両の走行に伴う大気質濃度</u> ・二酸化窒素 ・浮遊粒子状物質	【地域・地点】 関係車両の走行ルートとして想定される道路沿道の7地点（交通量1～7） 【時期】 開催期間の利用ピーク時	「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」に示されている <u>大気拡散式により、年平均値、日平均値及び1時間値を予測</u>

74

騒音

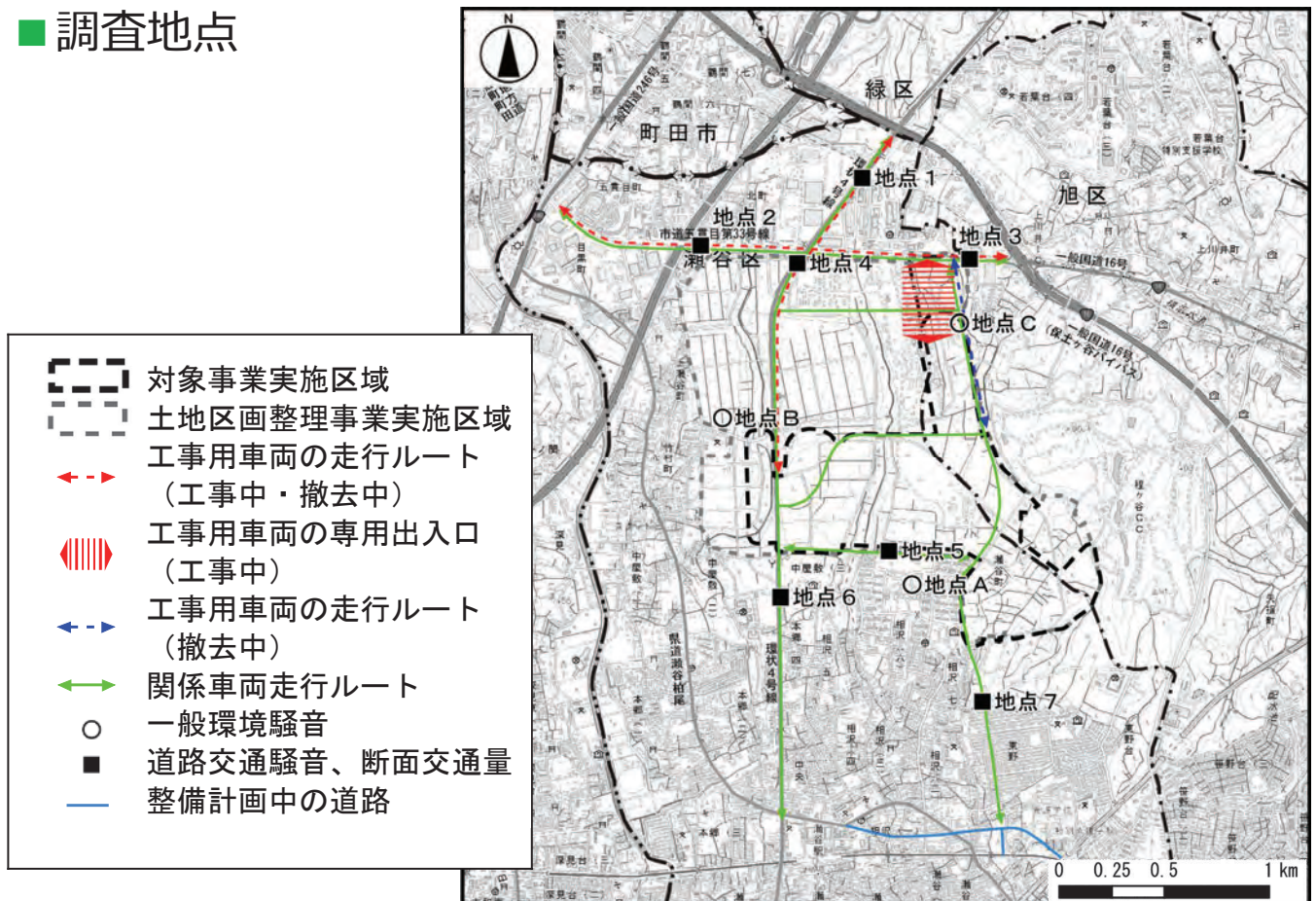
調査手法

調査項目 ^注	調査方法
騒音の状況 ・環境騒音 ・ <u>道路交通騒音</u>	<p><u>土地区画整理事業評価書</u>で実施されている現地調査（以下）の結果を収集・整理</p> <p>資料</p> <p>「騒音に係る環境基準について」に定める「環境騒音の表示・測定方法」</p> <ul style="list-style-type: none"> 測定高さ：地上1.2m 平日（24時間）×1回 休日（24時間）×1回
騒音の <u>主要な発生源</u> の状況 ・主要発生源の状況 ・自動車交通量等の状況	<ul style="list-style-type: none"> 既存資料を収集・整理 <u>土地区画整理事業評価書</u>で実施されている現地調査（以下）の結果を収集・整理 <p>資料</p> <p>自動車断面交通量 車種別方向別交通量を現地計測</p> <ul style="list-style-type: none"> 平日（24時間）×1回 休日（24時間）×1回

注：主な調査項目を記載

騒音

調査地点



騒音

方法書P.6-29～6-32

■ 予測手法（工事中・撤去中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
建設機械の稼働に伴う騒音	<p>【地域・地点】 対象事業実施区域の敷地境界から100mの範囲 予測高さは地上1.2m</p> <p>【時期】 建設機械の稼働による影響が最大となる時期</p>	「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」に示されている「ASJ CN Model」により予測
工事用車両の走行に伴う騒音	<p>【地域・地点】 工事用車両の走行ルート沿道として想定される道路沿道4地点（交通量1～4） 予測高さは地上1.2m</p> <p>【時期】 工事用車両の走行による影響が最大となる時期</p>	「道路交通騒音の予測計算モデル(ASJ RTN Model)」を用い、現況の騒音レベルに工事用車両の影響を加味することで予測

77

騒音

方法書P.6-29～6-32

■ 予測手法（開催中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
行催事における音響施設の使用に伴う騒音	<p>【地域・地点】 催事施設に最寄りの住宅等の保全対象、その近傍の敷地境界 予測高さは地上1.2m</p> <p>【時期】 開催期間の行催事開催時</p>	「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」に示されている「ASJ CN Model」により予測
関係車両の走行に伴う騒音	<p>【地域・地点】 関係車両の走行ルート沿道として想定される道路沿道7地点（地点1～7） 予測高さは地上1.2m</p> <p>【時期】 開催期間の利用ピーク時</p>	「道路交通騒音の予測計算モデル(ASJ RTN Model)」を用い、現況の騒音レベルに関係車両の影響を加味することで予測

78

振動

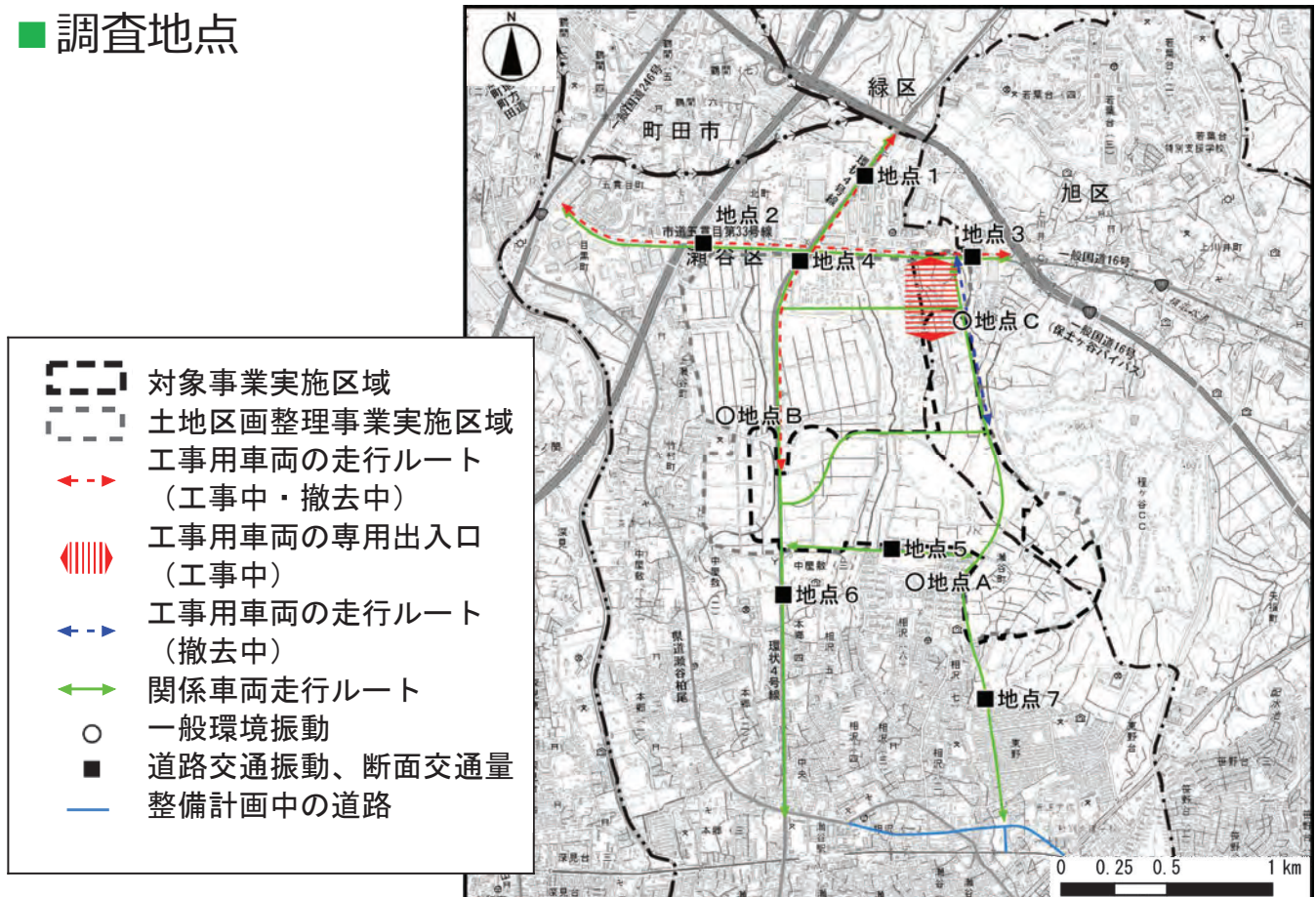
調査手法

注：主な調査項目を記載

調査項目 ^注	調査方法
振動の状況 ・一般環境振動 ・道路交通振動	土地区画整理事業評価書で実施されている現地調査（以下）の結果を収集・整理 資料 一般環境振動：「振動レベル測定方法」に準拠 道路交通振動：「振動規制法施行規則」に準拠 ・平日（24時間）×1回 ・休日（24時間）×1回
地盤の状況 ・地盤卓越振動数	土地区画整理事業評価書で実施されている現地調査（以下）の結果を収集・整理 資料 「道路環境影響評価の技術手法」に準拠 ・大型車の単独走行時10回
振動の主要な発生源の状況 ・主要発生源の状況 ・自動車交通量等の状況	・既存資料を収集・整理 ・土地区画整理事業評価書で実施されている現地調査（以下）の結果を収集・整理 資料 自動車断面交通量、車種別方向別交通量 平日（24時間）×1回、休日（24時間）×1回 ⁷⁹

振動

調査地点



振動

方法書P.6-33～6-36

■ 予測手法（工事中・撤去中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
建設機械の稼働に伴う振動	<p>【地域・地点】 対象事業実施区域の敷地境界から100mの範囲</p> <p>【時期】 建設機械の稼働による影響が最大となる時期</p>	「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」に示されている <u>伝搬理論に基づく予測式</u> により予測
工事用車両の走行に伴う交通振動	<p>【地域・地点】 工事用車両の走行ルート沿道として想定される道路沿道4地点（地点1～4）</p> <p>【時期】 工事用車両の走行による影響が最大となる時期</p>	「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」に示されている「 <u>振動レベルの八十パーセントレンジの上端値を予測するための式</u> 」を用い、現況の振動レベルに工事用車両の影響を加味することで予測

81

振動

方法書P.6-33～6-36

■ 予測手法（開催中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
関係車両の走行に伴う交通振動	<p>【地域・地点】 関係車両の走行ルート沿道として想定される道路沿道7地点（地点1～7）</p> <p>【時期】 開催期間の利用ピーク時</p>	「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」に示されている「 <u>振動レベルの八十パーセントレンジの上端値を予測するための式</u> 」を用い、現況の振動レベルに関係車両の影響を加味することで予測

82

地域社会（交通混雑、歩行者の安全）

方法書P.6-37～6-40

■ 調査手法

調査項目注	調査方法
日常生活圏等の状況 ・ 公共施設等の位置 ・ 学区、通学路の状況 ・ 避難場所等の状況	資料 既存資料を収集・整理
地域交通の状況 ・ 主要な交通経路及び交通量の状況 ・ 主要交差点部における交通処理 ・ 交通安全対策の状況 ・ 交通事故の発生状況	資料 既存資料及び土地区画整理事業評価書で実施されている下記手法の現地調査の結果を収集・整理 工事用車両、関係車両の走行ルートとして想定される主要6交差点及び1断面において、 <u>車種別・方向別・時間帯別の自動車交通量、渋滞の状況及び信号現示を把握</u> 交差点における交差点形状等を把握 ・ 平日（24時間）×1回 ・ 休日（24時間）×1回 ・ 混雑時（24時間）×1回

注：主な調査項目を記載

83

地域社会（交通混雑、歩行者の安全）

方法書P.6-37～6-40

■ 調査手法

調査項目注	調査方法
歩行者の状況 ・ 主要な通行経路、歩行者数、歩行空間の幅員等	資料 土地区画整理事業評価書で実施されている下記手法の現地調査の結果を収集・整理 工事用車両、関係車両の走行ルートとして想定される主要6交差点及び1断面において、 <u>歩行者自動車別・方向別・時間帯別の歩行者・自転車交通量を把握</u> 歩行空間の幅員等を把握 ・ 平日（24時間）×1回 ・ 休日（24時間）×1回 ・ 混雑時（24時間）×1回

注：主な調査項目を記載

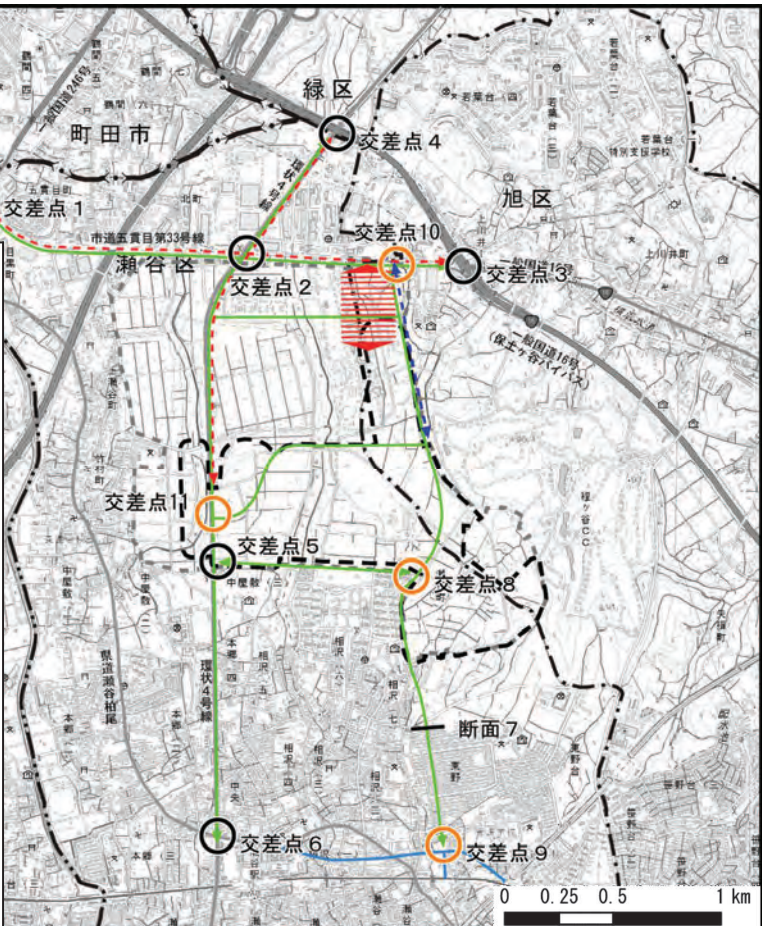
84

地域社会（交通混雑、歩行者の安全）

方法書P.6-37～6-40

■調査地点

--- 対象事業実施区域
- - - 土地区画整理事業実施区域
---> 工事用車両の走行ルート（工事中・撤去中）
||||| 工事用車両の専用出入口（工事中）
---> 工事用車両の走行ルート（撤去中）
---> 関係車両走行ルート
○ 調査・予測地点（自動車交通量、交通混雑、歩行者の安全）
○ 予測地点（自動車交通量、交通混雑、歩行者の安全）
— 調査・予測地点（自動車断面交通量）
— 整備計画中の道路



地域社会（交通混雑、歩行者の安全）

方法書P.6-37～6-40

■予測手法（工事中・撤去中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
<u>工事用車両の走行に伴う交通混雑（自動車）の程度</u>	【地域・地点】 工事用車両の走行ルート沿道として想定される道路沿道4地点（交通量1～4） ※撤去中は道路沿道5地点（交通量1～4、10） 【時期】 工事用車両の走行台数が最大となる時期	交差点需要率の算出等により、 <u>交通混雑の程度を予測</u>
<u>工事中の歩行者・自転車の安全</u>	【地域・地点】 工事用車両の走行が想定される主要交差点、ルート、施工ヤード周辺 【時期】 工事用車両の走行台数が最大となる時期	現状の交通安全施設及び歩行者・自転車の状況と、本博覧会で実施する安全対策等を整理することで <u>定性的に予測</u>

地域社会（交通混雑、歩行者の安全）

方法書P.6-37～6-40

■ 予測手法（開催中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
関係車両の走行に伴う交通混雑（自動車）の程度	<p>【地域・地点】 関係車両の走行ルートとして想定される主要10交差点（交通量1～6、8～11）及び1断面（断面7）</p> <p>【時期】 開催期間の利用ピーク時</p>	交差点需要率の算出等により、交通混雑の程度を予測
関係車両の走行に伴う歩行者・自転車の安全	<p>【地域・地点】 関係車両の走行が予想される主要交差点、ルート</p> <p>【時期】 開催期間の利用ピーク時</p>	現状の交通安全施設及び歩行者・自転車の状況と、本博覧会で実施する安全対策等を整理することで定性的に予測

87

景観

方法書P.6-41～6-43

■ 調査手法

調査項目 ^注	調査方法	
地域景観の特性	資料	既存資料の収集・整理
主要な景観資源の状況		
主要な眺望地点の利用状況及び眺望景観の状況	資料	土地区画整理事業評価書で実施されている現地調査（以下）の結果を収集・整理
		主要な眺望景観、困窮景観の状況 写真撮影及び目視確認による情報の収集、整理、解析
		公園整備事業方法書で実施が予定されている現地調査（以下）の結果を収集・整理
		主要な眺望地点からの景観 主要な眺望地点からの景観を、現地調査（写真撮影）により把握

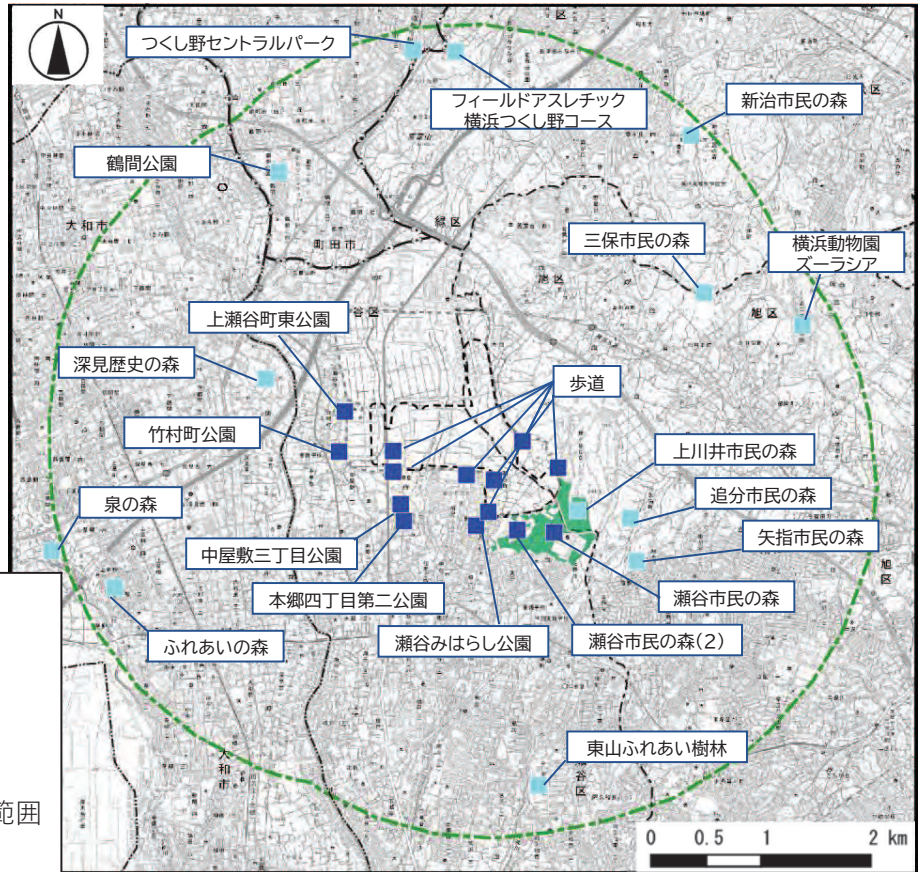
注：主な調査項目を記載

88

景観

■ 調査地点

 対象事業実施区域
 土地区画整理事業実施区域
 主要な眺望地点
 主要な眺望地点
 (会場を視認できない)
 対象事業実施区域から3kmの範囲
 主要な圍繞景観の構成要素



景観

■ 予測手法 (開催中)

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
施設の有 により変 化する 景観の状 況	【地域・地点】 現地調査地点のうち、 対象事業実施区域を 視認可能な地点 【時期】 開催期間	眺望地点からの <u>フォトモンタージュ</u> を 作成し、眺望景観の変化の程度を定性的に予測 近景域の眺望地点においては、 <u>圍繞景観</u> の変化の程度を定性的に予測

触れ合い活動の場

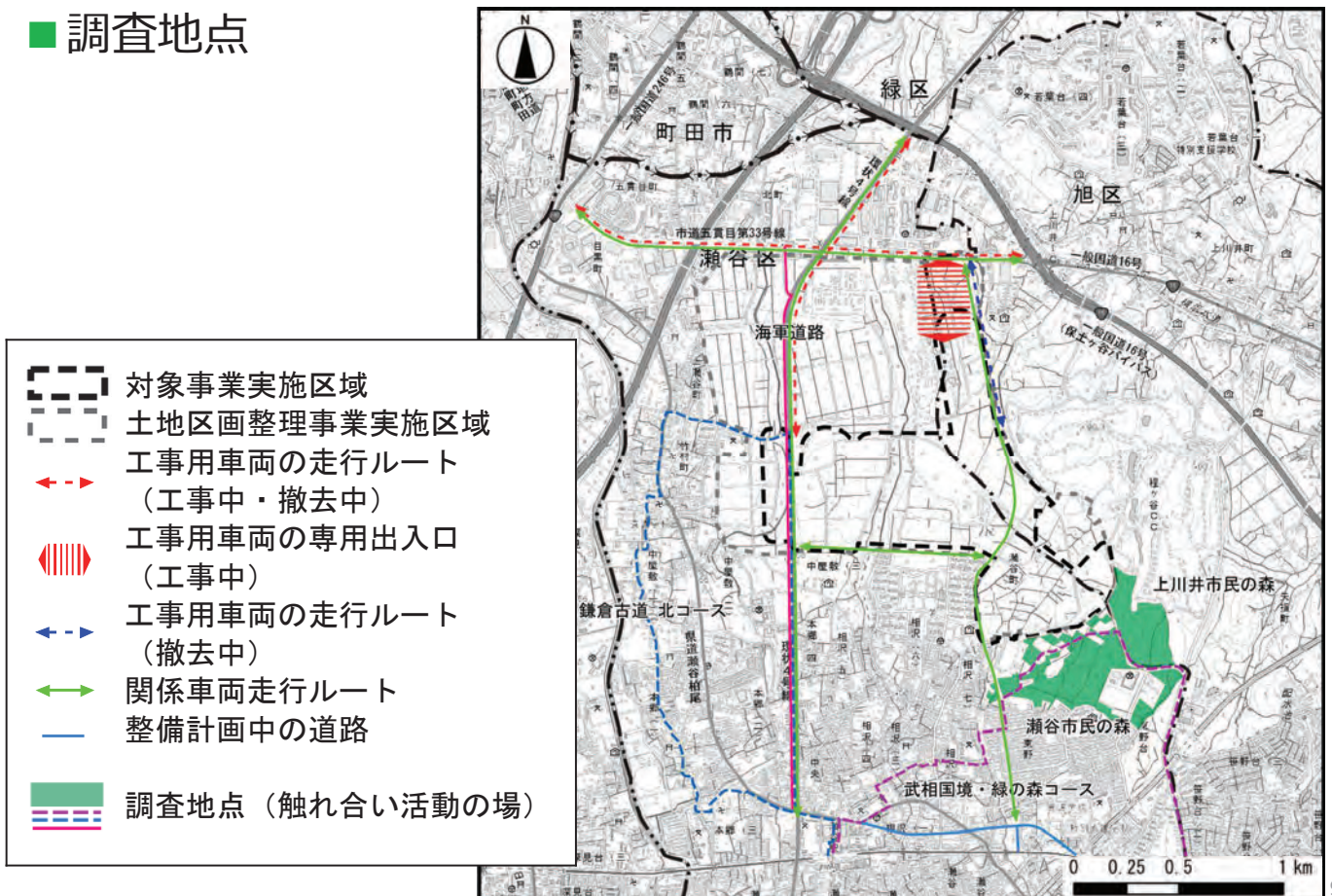
調査手法

調査項目注	調査方法	
触れ合い活動の場の名称、位置、規模、区域及び分布状況等	資料	既存資料の収集・整理
触れ合い活動の場までの経路、交通手段		
触れ合い活動の場の活動特性、利用状況等	資料	土地区画整理事業評価書で実施されている現地調査（以下）の結果を収集・整理 利用者が多い時期の状況について現地踏査及び聞き取り調査

注：主な調査項目を記載

触れ合い活動の場

調査地点



触れ合い活動の場

方法書P.6-44～6-46

■ 予測手法（工事中・撤去中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
工事用車両の走行に伴う主要な触れ合い活動の場への影響の内容及びその程度	<p>【地域・地点】 現地調査地点と同一の地点</p> <p>【時期】 工事期間（仮設施設撤去工事期間） 全体</p>	調査で把握した主要な触れ合い活動の場の状況と施工計画（仮設施設等の撤去に係る計画）を比較することで、 <u>影響の程度を定性的に予測</u>

93

触れ合い活動の場

方法書P.6-44～6-46

■ 予測手法（開催中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
関係車両の走行に伴う主要な触れ合い活動の場への影響の内容及びその程度	<p>【地域・地点】 現地調査地点と同一の地点</p>	調査で把握した主要な触れ合い活動の場の状況と交通計画等を比較することで、 <u>影響の程度を定性的に予測</u>
行催事の実施等に伴う主要な触れ合い活動の場への影響の内容及びその程度	<p>【時期】 開催期間全体</p>	調査で把握した主要な触れ合い活動の場の状況と事業計画を比較することで、 <u>影響の程度を定性的に予測</u>

94

他事業の影響も必要に応じて考慮する項目 方法書P.6-1～6-46

下記の環境要素については、本事業の予測時期において、その時期の他事業の影響も必要に応じて考慮し、影響を予測

環境影響評価項目	細目
大気質	大気汚染
騒音	騒音
振動	振動
地域社会	交通混雑/歩行者の安全
景観	景観
触れ合い活動の場	触れ合い活動の場

95

評価の手法

方法書P.6-1～6-46

環境の保全等に関して、

- ・ 横浜市計画及び指針等の中で設定している目標
- ・ 法令等で定められている基準
- ・ 環境に著しい影響を及ぼさない水準 …等を踏まえ



「環境保全目標」 を設定

「環境保全目標」と予測結果と対比することにより評価

結果等については、今後作成・公表する準備書にてお示します。

96

6 方法書対象地域

方法書対象地域

方法書P.7-1～7-2



区名	町丁名	周知地域
旭区	上川井町	一部地域
瀬谷区	瀬谷町	全域
	中屋敷二丁目	全域
	中屋敷三丁目	全域
	相沢五丁目	全域
	相沢六丁目	全域
	相沢七丁目	全域

凡例

- 対象事業実施区域
- 土地区画整理事業実施区域
- 都県界 市界 区界
- 対象事業実施区域から約200m圏
- 方法書対象地域

◆この資料は審査会用に作成したものです。審査の過程で変更されることがありますので、取扱いにご注意願います。

◆この資料は、「2027年国際園芸博覧会 環境影響評価方法書」の内容を抜粋したものです。

ご清聴ありがとうございました